

平成 26 年度 第 2 回学校協議会

日時 平成 26 年 11 月 7 日 15:30～17:00

1「2 年目の地域連携実践～社会につながる学科の取り組み～」

3 学科プレゼン

(委員)

- ・それぞれ学科のプレゼンを見て、就労に必要な心構えが身につけてきているのが感じられた。
- ・各学科の学びや、地域連携を生かした進路先の開拓などはあるのか？具体的な見通しや今後の課題について教えていただきたい。

⇒学科に見合った実習先を見つけるのが難しい面もあるが、摂南大学の清掃会社は福祉系のサービスも行っている会社であり、今後それらを職場開拓先として進路にもつなげていければと考えている。

進路でも生徒個人に丁寧な聞き取りをしながら実習先をさがしている。

2「研究授業の取り組み～振り返りシートの活用について」

資料説明。

(委員)

- ・研究授業週間では教員全員が授業に参観できる体制がとれているのか。
⇒全員参観はできていない。空き時間の先生には積極的にすすめている。全員がみられる体制は現時点では難しい。研究協議は生徒の下校後おこなっている。

(委員)

- ・積極的に研究授業に参加、研究協議に参加できるような体制作りを管理職の先生にもお願いしたい。
- ・事前に各研究授業について何人が参観ができるのか把握しているのか。
⇒授業の空き時間の先生、10名ほどが参加できる。
- ・振り返りシートがよくできている。これをもとに研究協議をおこなうと有意義なものができるだろう。

3「競技大会」について保護者アンケート結果

資料説明

特に質問なし。

4「学校教育自己診断票」について

三者対照表について

ワーキングで話し合いをし、KJ法でカテゴリーわけをおこない、新たにプラスした。

<協議>

(委員)

生徒、保護者がそれぞれの事項について実感として感じられているかどうか、身についた、満足したというのがわかる設問が望ましいのでは。実感しているかを聞くことがキャリア教育や学校教育の目的が伝わっているのか確認することができる。

(委員) 府教委から提示されている雛形の設問では取り組みをたずねる設問が多かった。生徒・保護者の実感をたずねる必要性もあるのがわかった。

(校長) 「コンピューターを使った授業は役立っている」と文言を変更するのはどうか。

(委員) そのような表現が良い。最後の文言を変えるだけでよりよい質問になるのでは。

(委員) 3者を並べて関係している設問がわかりやすい形になると教員と保護者くらべてみたい質問が出てきた。原案では保護者にしかたずねていない質問を教員にもとって保護者と教員のずれがあるか確認したい項目があれば設問を増やしてもいいのでは。

・まとめ、諸連絡

(校長) 学校への建設的なご意見ありがとうございました。学校教育の方針として選択肢を多く用意して、自己選択、自己責任を通して生徒の自立をうながしていきたい。

次回 2 / 6 15 : 30 ~ (当初のご案内より変更)